

語り継ごう、明日へ。

歴史はいつも未来へのみちしるべです
世の中の進むスピードと自分の生きていくペースが
少し合わなくなってきたなと感じ始めたら
いつか来た道まで戻ってみましょう

ひと街にと

No. 16

二〇〇六年 夏(年四回発行)

発行：(社)印刷紙工

札幌市中央区南十五条西十八丁目

TEL(011)561-1597

編集：ひと街にと刊行会

札幌市中央区北一条西十七丁目

北海道不動産会館四階

(有)編集工房海内

TEL(011)631-6651



分員しかったけれど 豊かだった夏休み

なんでもそろっているという点では、現代のコンビニに通じるところがなきにしもあらず。でも何が違うとって少年たちは貧しかったのですよ。わずかな硬貨を握りしめて、近所の「よろずや」へ駆けつけました。なめると限りなくスカが出るクジヤ、ビー玉、駄菓子もよかつたけれど、季節は夏。虫採り網や虫かごがほしかった。安いのではトリモチなんていうのもありましたね。紙の片側をゆつくりはがすと現われるこげ茶色のネバネバタベタ。これを延べ竿の先に付けて準備OK。いざ、セミの森へ。ちよつと軍資金に余裕があれば、かき氷かバクダンキャンデー、ラムネという手もありましたが、やっぱり遊ぶのが先。

夏休みの宿題は？ ラジオ体操、絵日記、アサガオの観察、昆虫の標本——できていなくても、真っ黒に日焼けして始業式に出れば、先生もにこにこでした。

砂丘に続く木製の遊歩道



石狩——河口の町

悠々たる流れが教えてくれる 変わらないもの、変わるもの

石狩という地名は全国に知られていても河口の町にゆつたりと流れる時間を知っている人が少ないのは道産子も同じでしょう。たまに行くと町の変化には驚かされますが、大河の悠々たる流れがいつも変わらないことの大切さを教えてくれます。

洪 井一夫「海の詩画集」（昭和四十八年発行）をめぐっていたら、最後のページに石狩画廊への案内図がありました。それによると石狩バスターミナルの南向かいはバ

チンコ屋になっています。そういえば当時、バスの待合所は商工会の建物に入っていました。何より画廊がなつかしい人も多いでしょう。病院と寺のある四つ辻を過ぎて浜に出ると、ポツンと白い一軒家。十年前、洪井さんの急逝で閉じられることになりましたが、冬でも裸の短パン姿を覚えている人もいます。



ここが悠々の大河、石狩川の河口。長い旅で集めてきた人の世の諸々が「一切、無」に帰する瞬間でも——



石狩の浜にはハマナスがよく似合う

旧役場跡（右）の変わりよう。二階に観光センターがある



石狩の歴史がひと目でわかる。弁天歴史公園



石狩町誌に見つけた町役場の写真（複写）。左は懐かしい洪井一夫さんの詩集

前年にオープンしたのが番屋の湯。札幌から日帰りの出来る公共温泉として盛況でしたが、先ごろのニュースでは経営不振で民間に譲渡されるとか。郷土資料館だった旧役場は昨年、観光センターとなり、一帯も大きく変わりました。前述の病院のあったところは、ひと足早く歴史公園になっています。市制に移行しても、厚田村や浜益村と合併しても、この河口の町だけは変わらないという希望がありました。でも、時代の流れを押しとどめることは出来ないようです。

もちろん変わらないものもあります。それは観光センターの裏手を流れる石狩川。大雪山系石狩岳に源を発し、二十二市町村を通過する長さ全国第三位の大河。そのゆるやかな流れを目の当たりにすると、町の変貌も小さなことに見えてきます。そしてハマナスなどの海浜植物が愛らしい砂丘や灯台へ足を向けると、やはりこれも別世界です。札幌から車でわずか四十分のところに、こんな「何も無いよさ」「人工でない美」があるとは。時間があつたら、ビジターセンターからゆつくり歩いて三十分ほどの石狩川河口まで行ってみませんか。石狩岳に落ちた雨の一滴、雪消の水が地中をくぐり、大河に合流してここから日本海へ出ていくのです。河口にしばしたらずんで、やがて気がつくことでしょう。時間が止まっているようで止まっていはいない——水の流れに、時の流れを見ることが出来るからです。



中央バス「石狩」終点。現在は一時間に一本

商店街を歩きながら季節を知るとい
うことが少なくなつた昨今、サンモール
一番街でいち早くその訪れを告げるのが、
今年創業百一年という新海金物店(市原
顕美社長)。春から夏は園芸、畑仕事用
品、秋から冬は暖房や除雪用品などが
店の前に並び、道行く人は「ああ、もう
そんな季節なんだ」と実感するのです。
百一年前の明治三十八年といえは日露
戦争が終わつた年。小樽市が北のウォー
ル街と呼ばれて最も華やかだつた時代で、
日銀小樽派出所の支店への昇格がその三
年前。店の裏にある三階建ての石蔵とと
もに四代の歴史を刻んでいます。

鍋やかんといった家庭金物でさえ、
車を走らせてホームセンターという名の大型店で買い求める時代。
あの薄暗くて、積み重なる商品の陰から、
ほしいものを探し出してもらつた金物店はどこへいったのでしょうか。
まだまだわが町には健在といつともありますが、ここまで大きな店は――。

創業百一年、 懐かしの ホームセンター。

店内に入れば、まあ、何という金物
ワールド。キッチン用品やリビング用品
などが整然と、そして温かく迎えてく
れます。取締役の新海貴美子さんによ
ると五千種の品揃えとか、「大型ホーム

センターができて影響はまつたくあり
ません」というのもうなすけまず。鍋一
つみても同じ型のもが直径一四センチから
四五センチまで十四種類。中華料理のお玉
でも四〇ccから八〇〇ccまで。「この大き



創業のときからある石蔵
札幌軟石でしょうか

向かいの丸井今井は閉店しても
賑わいを失わないようにがんばる



親から子へ伝わる品揃え、堂々の5000種



言葉もしばしば。
その自信の裏付けは品数だけではあ
りません。「メーカーから直接、業務用
の製品を仕入れているから」(新海さん)。
性能のよいものは長持ちすると、お客
さんもよく知っているのです。東は銭函
から西は黒松内まで後志管内を商圏に、
電話やファックスの注文も頻繁に。
かつての、どことなく薄暗くて、物陰
に宝物でも潜んでいそうな、そんな懐か
しい金物店でもあります。変わった品
物では梅の種を取るといふ梅割器なん
てどうですか。トコロテン突きや飯びつ、
鯉節削り箱といったものも。覗いてみる
だけでも楽しい「親から子に伝わる金物
の百貨店(一回)です。

季節の商品は店の前に。この時期は主に畑仕事のもの。店内には台所金物を中心に所狭しと――

中華料理のお玉各種に亀の子タワシ――何でもあ

茶舗のいま・これから

ミツカン水の文化センターの平成十四年調査では、日常の飲み物は自分で入れた茶が、五一・五割でトップだったとか、でもペットボトルや缶入りの茶系ドリンクの急な伸び、町のお茶屋さんほうがかうかしていられません

万キロットだった茶系飲料の生産量が、十六年には六百十五万キロットと、コーヒー飲料や炭酸飲料などを押さえて大きく伸びています。年間購入量を世帯主年齢別にみる



和への回帰で ドリンク攻勢を しのぐ。

年々減少の緑茶購入量

テ レビのニュースなどに映る様々な会場で、必ずテーブルの上に乗っているのがペットボトルか缶入りのお茶。湯飲みが見られるケースは皆無といってよい全国的風景です。日常茶飯事という言葉があるように、お茶は日本人の生活の一部、ごく当たり前の存在だったので、いまそれが変わりつつあるようです。端的な数字が家計調査年報（総務省）に表れていますので、それを見てみますと、一世帯当たりの年間購入数量が昭和五十七年は千六百二十二だったのが、平成十六年は千七百七十七と三割以上も減っています。

同調査に茶系飲料の項目が登場するのが平成十二年。その年の緑茶購入金額六千八百十円に対して茶系飲料三千六百六十八円だったのが、十六年は緑茶五千五百七十五円、茶系飲料五千三百七十八円とほぼ同額。

社団法人全国清涼飲料工業会の調べでは、平成十二年には四百九十五

が下がるにつれてお茶の消費が少なくなっています。こうしたお茶の消費量減少の原因はどこにあるかといえば、それはまさに生活の洋風化に伴う飲料の多様化ということ。次にあげられるのが核家族化。それも一人や二人しかない少人数の世帯です。食事も出来合

万キロットだった茶系飲料の生産量が、十六年には六百十五万キロットと、コーヒー飲料や炭酸飲料などを押さえて大きく伸びています。年間購入量を世帯主年齢別にみる

ことで、若い世代のお茶離れもつきり。平成十六年調査で七十歳以上千六百三十四、六十代千四百九十一、五十代千四百九十二、四十代六百五十九、三十代四百八十六、二十九歳以下二百二十六と、年齢

どうで買っていますか

いを外から買ってくるスタイルです。から、自宅の冷蔵庫にペットボトルの茶系飲料が納まっているのは、ごく普通の生活といえるでしょう。

で すから、お茶屋さんにとってもお客がどこでお茶を購入するかも大きな関心事です。平成十一年

全国消費実態調査（総務省）によりますと、五十歳以上は一般小売店スーパーの順ですが、四十代からはそれが逆転。さらにスーパー、コンビニエンスストアで求める茶飲料も強敵です。それに中心商店街の衰退が影響していることも想像に難くありません。

お茶屋さんの事情を聞くために訪ねたのは、北海道茶商工業協同組合の土倉裕之理事長（五三）、お茶の土倉社長、本社札幌市白石区。土倉理事長の話では、一時は道内に三百軒以上あった茶舗も、現在は二百軒ほど。このうち組合員は五十一社で、札幌市内が十九社。「かつては不況に



「お茶の土倉本社（白石区菊水三五一）階は、お茶の販売コーナーを併設した。日本茶と中国茶の喫茶店になっている

なればお茶屋が増えると言われたものですが、後継者不足で高齢化も目立ちます」といい、バブル崩壊以降は売り上げも伸びていないそうです。一人が一日に飲む量は決まっているので、リーフ（茶葉）がドリンク（ペットボトル、缶入り）に押されているのは前述のデータのとおり。大手メーカーの機能性（飲料）の特徴付け、ネーミング、テレビCMなどにはかなうはずありませんが、「お茶イコール生活だったのが、生活様式まで変わってしまった」ことが大きいと。「お茶は変わらないんですよ。家に湯飲みがなくなつた、急須をどこにしまったか忘れてしまった」（土倉理事長）。

会社需要の減少もマイナス要因です。すでに女性が社員のお茶を入れる時代ではなくなりましたが、いまは茶殻の処理が嫌がられるようになってきているとのこと。ISOに抵触すとか、ビル自体が茶殻のゴミはダメとかで、給茶機や自販機を備えたり。機械がなければ個人で外からペットボトルを買ってくるということです。



——大森園本店（西区西野3-2）

日本茶インストラクター

はいえドリンクの伸びは、生活様式の変化だけが原因ではなく、飲む場面を想定して容器の大きさや味を変えろといった、きめの細かい販促策も見逃せません。一方、茶葉側は「個々の経営規模が小さく、組織を挙げての消費者対策ができなかつたし、店自体もお客さん一人ひとりの顔が見える商売をしてこなかった」(土倉理事長)が実情です。

そこでお茶の土倉では、パウダー茶やコーラゲン、カテキン入りのお茶を開発したり。なんとといっても珍しいのは、社屋一階の販売コーナーを兼ねた喫茶「今天」です。もちろん緑茶と中国茶のみを提供。玉露宇治六百円など三十種類近くを、お茶菓子とセットで味わえます。

一方、大手のドリンク攻勢をよそに日本文化の良さ、お茶の効能を、いわば生涯学習的に幅広い層に広めることに取り組んでいるのが、大森園(本社、札幌市西区)の大森健末(六三)です。



店内にはお茶のさわやかさがあふれんばかり

大森社長は、需要の底上げとさらなる普及を目指して平成十一年に創設された日本茶インストラクター制度の、北海道第一号となった人。現在二十六人いる北海道支部長でもあります。お茶の知識ばかりでなく、茶葉を見て味の優劣の順位を判断したり、指定されたお茶の正しい入れ方を実際にやってみせたりという超難関試験を突破したのは、これまでに全国で千六百人しかいません。

話術の巧みさもあつてあちこちの講演に引つ張りだこで、なかには小中学校で生徒たちを前にお茶の話をすることにも。「急須で入れるのが面倒といいますが、じゃあコーヒーはどうですか。サイフォンを使って落として、お茶と同じでしょう」と根強いコーヒー党のいることを例に、「お茶を飲んでもらう」努力の足りなさを指摘。「神話の世界も含めれば五千年の歴史。健康にも良いことが証明されているものが、廃れるはずがないでしょう」と言い切ります。

ちなみに同店には、大森社長のほかにインストラクターがもう一人。さらに店員のほとんどが日本茶アドバイザーの資格を取得しています。また近年は、周知のとおり安全安心が求められている時代。お茶も今年五月からは残留農薬基準をクリ

お茶 アラカルト



●不発酵茶と発酵茶

製茶工程の第一段階で生葉をすぐに加熱処理して酸化酵素の働きを止める不発酵茶と、酸化酵素の働きを利用する発酵茶に分けられます。緑茶は不発酵茶、紅茶は発酵茶。ウーロン茶は半発酵茶です。

●蒸製と釜炒製

緑茶の加熱処理には蒸気を使うものと、釜で炒る方法とがあります。蒸製には玉露、てん茶、煎茶、番茶など。釜炒製には玉緑茶、中国緑茶などが。玉緑茶の代表的なものが嬉野茶です。

●玉露、煎茶、番茶

玉露は茶畑に直射日光を避ける覆いをして育てた芽で作る高級茶。渋みが少なくうまみの強いのが特徴。てん茶も栽培法は同じですが、もまずに乾燥させます。これを粉にしたのが抹茶。煎茶は日光で育った新芽を使う最も一般的な茶(一番茶)。その後、時期をずらして二番茶、三番茶、秋冬番茶と摘んでいくのが番茶です。

●ほうじ茶、玄米茶、荳茶

番茶を炒って香ばしいかおりをつけたのがほうじ茶。玄米茶は、番茶や煎茶に炒った米を混ぜています。荳茶は、玉露や高級煎茶の仕上げの過程で選別される荳や茶軸で作ります。

●都道府県別栽培面積(2003年)

- ①静岡 20,500ha ②鹿児島 8,350 ③三重 3,380 ④熊本 1,690 ⑤福岡 1,590 ⑥京都 ⑦宮崎 ⑧埼玉 ⑨佐賀 ⑩岐阜 1,040

緑茶 茶飲料 を1世帯1ヵ月当たりどこで、どのくらい買っているか

●単位/円

■緑数字 = 緑茶

■青数字 = 茶飲料

※<平成11年全国消費実態調査(総務省)から>

世帯主の年齢	30歳未満	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	平均	
1ヵ月間の支出	132 169	211 175	331 222	553 196	728 132	795 106	480 176	
購入先	一般小売店	34 15	50 14	90 17	202 19	282 18	368 17	173 17
	スーパー	55 82	77 93	125 127	159 114	183 74	174 56	138 99
	コンビニエンスストア	3 43	4 33	6 30	4 22	6 12	3 11	5 24
	百貨店	7 4	19 4	26 5	46 5	76 4	96 2	45 4
	生協・購買	3 3	16 9	32 15	40 11	39 7	38 5	32 10
	ディスカウントストア	3 8	5 10	6 9	5 11	6 6	6 2	5 8
	通信販売	20 -	29 0	23 1	48 1	78 0	57 -	44 1
その他	8 13	12 11	22 17	49 13	59 12	53 14	37 13	

●緑茶の世帯主年齢別一世帯当たり年間購入量(g) ※家計調査年報(総務省)から

	~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65歳以上	平均
昭59年	696	767	951	1,193	1,429	1,610	1,877	1,833	2,228	2,075	1,540
平元年	246	369	643	974	1,109	1,336	1,361	1,792	1,760	1,790	1,291
平6年	238	426	551	690	847	1,107	1,376	1,428	1,668	1,834	1,187
平11年	340	263	419	598	760	1,084	1,227	1,607	1,770	1,892	1,246
平16年	326		486		650		1,192		(60~69歳) 1,491	(70歳~) 1,634	1,077

アしていなければならなくなりました。「小売店といえどもお客さんの健康に気を配るのは義務」と、国の環境基準に従っている農家のものしか使つてないというエコファーマー・シールを貼るなどして、安全性を強調しています。

「和菓子の売り上げが洋菓子を上回りまして。雅楽人気など、向こう三十年以内に「和」が世界に浸透していくという人もいます」と、お茶の将来に悲観的な見方は一つもしていません。聞けば札幌市西区にはお茶屋さんは二軒しかない。地域店としてわが道を行く自信は十分にあるというところでしょう。

来た道、 行く道。

様々な先達がいるからこそ
二十一世紀があるんだよ——
スローコミュニケーションを求めて。

本欄への自薦他薦を
お待ちしております。

六 月だけで百三十人もの修学旅行生
が来るんですよ。こう言う松田印
判店の店主、松田和久さん（五）の顔が
ほころんでいました。小樽のはんこ屋さ
んに、またなぜ修学旅行生が——。

帰ります。松田さんが後日、それをミニ
印鑑に仕上げプレセントするという仕
組みなのです。

■ ■ ■

実は松田さんは小樽職人の会小頭で、
NPO北海道職人義塾大学の理事の一
人。小樽に残る職人の技術を広く若い人
に伝えて、後継者育成につなげたいとい
う同大学主催の体験学習の二環として、
道内小中学生の修学旅行のスケジュール
に組み入れてもらっているからです。

昭和十九年に父が創業した店を、松田
さんが継ごうと決意したのは二十一歳の
とき。すぐに札幌に修行に出され、年下
の兄弟子たちとともに四年間の住み込み
です。三月月ほどは印刀の研ぎを毎日や
らされたほか、仕事場の掃除なども。

このうち七、八人の班に分かれて同店を
訪れる中学生は、松田さんから日本の印
鑑の歴史を聞き、彫る工程を見学し、各
自が自分用のはんこの文字を紙に描いて

今では家業がはんこ屋さんでもない限
り、この仕事に入ろうという若者は少な
く、店主の高齢化とともに店の数も減る
一方。それに、仕上がりより値段の安さ
で選ばれる時代です。勢い味気ない機械
彫りも増えました。

小樽印章業組合の組合長でもある松田



四角い印は竹の筒にはさんで作業。1本3時間くらいで仕上がる



松田印判店
小樽市稲穂3丁目16-16 TEL0134-22-8767

さんですが、組合員は現在十人ほど。「景
気の良いときは、ぼんとお金を出して一
番高い材料で作ってくれなんていうお客



印刀の先端、左右の刃を使って細かく彫る



丸い印をはさむ
木製の作業道具



年季の入った印刀の数々
修業時代は毎日これを研いだ

修学旅行生迎え、 「目指せ、カード時代の はんこ職人を」

松田 和久さん——松田印判店（小樽市）

「さんもいた」（松田さん）そうです。札
幌のように人口が多くなく、官公庁や会
社関係の需要がないのも組合員減少の原
因でしょう。

■ ■ ■
印鑑の素材は主に柘（つげ）、水牛（角）、
象牙、プラスチック。いずれにしても最
初の作業は印面を平らにする面すりです。
次に印面に朱墨を塗って、墨で逆さに文
字入れ。ここで経験と技術の差が出るの
が文字の配列と大きさです。各文字を同
じ大きさに彫ったのでは、画数の多い文
字は大きく、少ない字は小さく見えてし
まいますので、見た目には分からないく
らいの差をつけるのが腕。



み道具を使いま
す。一本仕上げる
のに三時間ほど。
一日に二、三本が限
界だそうです。

の時代とはいえ、印鑑の重要な役割は変
わりません。仕上がった一本を眺めなが
ら、「同じサ
インをもらう
なら、きれい
なサインが喜
ばれるでしょ
う。はんこも
同じなんです
がね」と言う
松田さんで
す。



稲穂の古い街並みにマッチした店舗

道具で

道草30年

レトロスペースには様々な人がやってくる
若い女性とは会話がうまくできないあるじが
つい話し込んだ訪問者は一青窈という歌手だった

坂一敬

レトロスペース坂会館館長(坂茶養食品開発部長)

四

月の初めに二十代半ばぐ
らしい女の子が、レトロロに
やって来た。そしてたまたま居合
わせた私に色々聞いてくる。ど
うしてレトロロを始めたのかとい
つた質問自体はありふれたことな
らけど、その聞き方が的を射て
いて、しかも古い物に愛情を持っ
ていることが感じられる態度なの
で、私もついつい、終る時間ギリギリ
まで話し込んでしまった。

こんなことはそうあることでは
ない。彼女ぐらしい年齢の女の子
とは会話が成り立たないことが多
い。そこで私も聞いてみた。「ど
んな仕事をしているの?」「歌を
歌っています。」「名前を聞いても
いいかな? 名刺か何か持ってい
る?」「持っていない。」「そう言っ
て連れの女性からオレンジ色の
カードを貰い、印刷のすき間に「一
青窈」と書いて私に渡してくれた。
私はこの名字が読めなかったの
で、何と読むのと聞くと、彼女は
「ひとと・よつ」と仮名をふった。
私が変わったはずらしい名前だと言
うと少しむきになって「そんなこ
とはないです。生まれた石川県に
はこの姓は結構多いです。お父さ
んが台湾だから名前は窈の一字で
す。」と言う。私には初めて聞い

た名前だった。

そして続けて、明日市民会館で
コンサートをするので、是非聴き
に来て欲しいと言う。「何時から?」
「夕方の六時三十分から。」「それ
は無理だわ、後片付けを終えてか
ら行けば終る頃にしか着けない。」「
それならカウンターのの中にいる、
あの綺麗なお姉さんに留守を頼ん

一青窈の 聴けないCD。

で抜けて来て!」「うーん、でも
たぶん行かないと思うよ。」

次の日の帰り道に地下鉄を降
りたところで、市民会館への道を
聞かれた。体が少し不自由な人
であった。道順を教えたのだけど、
たぶん地元の人ではないのだろう、
よくわからないみたいなので近く
まで案内してあげた。

途中ふと思った。会館も市の説
明によれば古くなったので取り壊
す。再建は八年後とか。最後だか
ら入ってもいいかと会場に入ると、
私の座る席は当然にも後ろのシミ
という一番悪いところ。中はギツ

シリで彼女の姿は小さく見えるだ
け。もう始まっており、「レトロロ
スペース坂を知っている人は手を
挙げて」と彼女は言い、私から聞
いた話を交じえて、レトロロのこと
を歌の合間に一杯喋ってくれた。

コンサートが終わり、客が席を
立って出口に向け歩き出した時、
足の不自由な杖をついた女の子の
後ろ姿が目
に入った。彼女
はゆっくりと
しか歩けない
のだけど、そ
の赤いコート
の後ろ姿はと
ても満足し
ていることがわかる歩き方であ
った。若い子には決して安くはない
チケッ時代であったとは思われる
けれど、それを上回る何かを得た
という感じであった。

私も遅れてはいても来て良かつ
たと思いつながら地下街を歩いたの
だけけれど、少し気分が高揚してお
り、喫茶店でコーヒーでも飲みな
がら、余韻を楽しみたい気持ちだっ
た。あいにく帰り道には、適当な
店が見当たらない。そこでレコー
下屋に何年かぶりに寄ってみた。
中はすっかり変わっていて全然
わからないので、店員さんに彼女

のCDの並んでいる所まで案内し
てもらった。選んだのは昭和初期
の着色写真を思わせる一枚である。
プレイヤーを持っていないのだか
ら、どうせ聴くことはできない。
見るだけだ。
見るにはピッタリの一枚。この
CD、封を切ることもなく、今も
私の手元にある。たぶん開けるこ
とはないと思う。

春爛漫の 花の色
秋紅葉の もみじ葉も
無情の風に 誘われて
いろはにおそど ちりぬるを

人の心は 空蟬の
儂きものと 知らばとて
呼べど帰らぬ 去りし日は
わがよたれぞ つねならむ

明日の運命は 誰が知る
もらい泣きする 日々の中
この世の旅は 続けども
ういのおくやま きょうこえて

廻る縁の かぎくるま
風に吹かれて 舞う人を
窈と知りせば 幻の
あさきゆめみし よいもせず
といったところであろうか。

本づくり相談室

「私の原稿を本にしたい」のですが――。

Q 新聞広告でよく見る
自費出版の仕組み教えて

自費出版社の倒産をニュース
で知りました。広告でよく見か
ける「あなたの原稿を本にしま
す」という会社かと思えます。
原稿を書き上げてどう進めよう
か考えていたところだっただけ
に、ちょっとショックでした。
一連の会社はどのような仕組みで
自費出版を引き受けているので
しょうか。

A 書店に並べてもらうには
内容に相当のレベルが必要

以前に同様の内容について書
いたことがあります。改めて
お知らせしましょう。
いわゆる自費出版というの
は、自分史など著者が印刷の費
用を負担するもの。これに対し
て、出版社が企画・編集・販売ま
で手がけるのが商業出版。著者
には有名な作家もいれば、無名
でも売れる内容という判断でべ

ストセラーまで目指します。
この自費出版と商業出版の間
に位置するのが、お尋ねの共同
出版とか協力出版とかいうもの
です。

広告のようなたい文句で一
般から原稿を募り、内容によ
って出版社の協力度合い、費用負
担の割合が異なってくるという
ものようです。たとえば、これ
は売れるとなれば文章の手直
しから構成、タイトルまで、出
版社主導で進んでいくというこ
と。もちろん販売までです。
しかし商業レベルにまでは

達しない作品については、どう
いう出版契約になるのか、その
辺りは定かではありません。ま
して自分史がそのような扱いに
なるはずもなく、検討が必要で
しょう。

良心的な出版社も数あるはず
ですから、慎重な行動が望まれ
ますが、少なくとも書店に並べ
られるような作品には、相当な
レベルが要求されると考えたほ
うがよいでしょう。

何かに追い立てられるように過ぎていく毎日。いつもそこにある時計に、足を止めることを忘れていませんか。

時間に夢を託す。

カニの爪ではありません——街中の時計もデジタル表示が多くなって、こんな古典的な？ 時計にお目にかかる、なんだかほっとします。写真は札幌市民会館前のものですが、花時計のある街、すぐにどこかを思い出せますか。いずれにある時計も文字盤に当たる部分を花壇として、巨大な機械時計や日時計を設置してあるものです。でも本来は、花の開閉時間を巧みに組み合わせると時計の機能を持たせたとか。花巻温泉の花時計も、宮沢賢治のデザインした日時計と聞けば、なにか面白い仕掛けもあるのではと思わせます。花時計にはやはり、素朴な夢が感じられます。



編集室

後継者をどうする

団塊世代の大量定年で技術職の後継者不足が取りざたされています。産業構造のウエイトがサービス業に移っていくことは歴史の証明するところですが、このままでは、手仕事のいくつかもまた「レッドデータブック」に載らざるを得ないでしょう。

ならば後継者をどうする——技術があれば独立できるんだ、後世に伝える重要な仕事もあるんだということ、中学生や高校生に機会あるごとに公開、紹介していくことも大切ではないでしょうか。小樽職人の会のような活動はやはり貴重です。

ゆっくり生きる象徴

札幌市の市電の存廃・延伸論議が活発です。延伸は札幌駅前通りの西四丁目——すすきの間をつなげるとか、札幌駅まで延ばすとかいっただことです。運営赤字をどうするかは早晩、結論を出さなければならぬことです。存続に関しては市民はおおむね好意的のようです。市電はやはり、ゆっくり生きる都市・札幌の象徴としてあるべきでしょう。路線の復活についてはもう一つ納得がいけない人もいます。東一丁目の創成川暗渠化がよい例で、前回の両側道路の整備に伴う流路変更は何だったのでしょうか。市電も一旦廃止したのにまたなぜ、という疑問もわいてきます。

聞き書きしておこう

終戦記念日がやってきます。家族



や親戚などで戦争を経験している人は健在でしょうか。昨年、八十三歳で亡くなった人の、ささやかな思い出集を手伝っています。親子のコミュニケーションがうまくいったようで、息子さんの記す父親の歩みがよく伝わってきます。亡くなったからもっと聞いておけばと後悔しないように、できるだけ話を聞いてメモしておきましょう。本にしないまでも、書いておけば残ります。

●自分史セミナーの「出前」します

印刷紙工では毎年、定期的な本づくり講座を開いています。都合で来られなかったり、お仲間だけで話を聞きたいという人のために、本づくりセミナーの出前を行っています。三人以上のお集まりで、会場をご用意いただければ、日時を相談の上、編集者と印刷担当者がお伺いして、いろいろとアドバイスをさせていただきます。

●記念誌づくりもお手伝い 企業や団体の節目の設立周年（二十周年、三十周年……）にちなんだ記念誌づくりもお手伝いいたします。企画から承ります。

●小紙をお送りします 小紙をご希望の方には、定期的に無料でお送りしております。印刷紙工までお申し込みを。